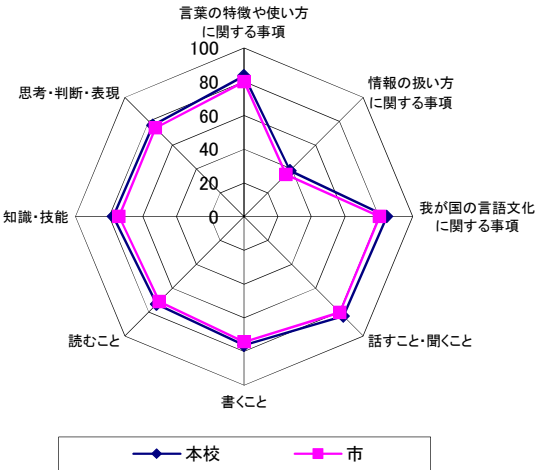


宇都宮市立陽東中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.5	80.0	76.5
	情報の扱い方に関する事項	38.6	35.2	29.3
	我が国の言語文化に関する事項	84.7	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	83.4	80.4	77.7
	書くこと	76.2	74.3	62.9
	読むこと	73.4	71.2	65.8
観点別	知識・技能	77.6	74.1	68.4
	思考・判断・表現	76.5	74.3	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

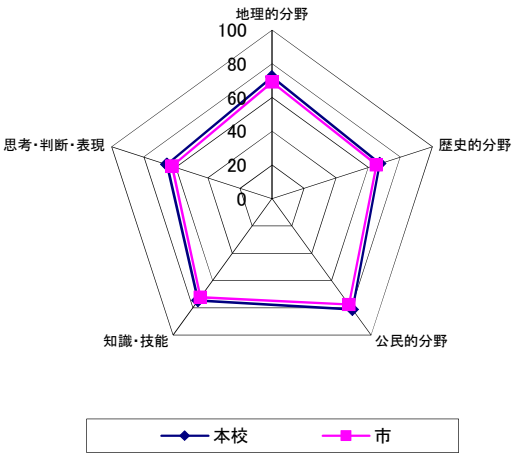
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○市の正答率を3.5ポイント上回っている。特に、「敬語について理解している。」か問われた問題では、8.8ポイント市の正答率を上回っている。 ●「用言の活用について理解している。」か問われた問題では、市の正答率を5.2ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ 日常の言語活動を振り返り、言葉の特徴やきまりについて気付かせる指導を行う。 ・ 言葉が生活と密接に関連していることを実感させるとともに、実生活に生きる言葉の力を身に付けさせる指導を行う。
情報の扱い方に関する事項	○市の正答率を3.4ポイント上回っている。特に、「情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。」か問われた問題では、市の正答率を4ポイント上回っている。	・ 複雑な情報を整理するために、図や表を用いて整理する方法の指導を行う。 ・ 情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉えるために、文章の内容を図や表を使って整理する指導を行う。
我が国の言語文化に関する事項	○市の正答率を4.3ポイント上回っている。特に、「歴史的仮名遣いについて理解している」か問われた問題では、市の正答率を7.8ポイント上回っている。	・ 古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れる指導を行う。 ・ 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむことが出来る指導を行う。
話すこと・聞くこと	○市の正答率を3ポイント上回っている。特に、「自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話している。」か問われた問題では、市の正答率を6.7ポイント上回っている。	・ 話の展開を予測しながら聞き取るために、正確な聞き取りのもとメモを取り、それを整理する指導を行う。 ・ 話合いの際に、話の本質を簡潔に的確に聞いたり話したりできるよう指導を行う。
書くこと	○市の正答率を1.9ポイント上回っている。特に、「自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。」か問われた問題では、市の正答率を3.5ポイント上回っている。	・ 自分の考えを明確にして書くことができるよう、自分の立場を明確にすること、また相手が納得する理由や根拠を書く指導を行う。 ・ 理由や根拠となる資料やグラフを条件通り読み取る指導を行う。
読むこと	○市の正答率を2.2ポイント上回っている。特に、「文章の構成について評価している。」か問われた問題では、市の正答率を6.8ポイント上回っている。 ●「物語の展開の仕方を捉えている。」か問われた問題では、市の正答率を1.3ポイント下回っている。	・ 目的に応じて文章を読み獲得した情報から自分の考えをもち、それを相手や場面に応じて適切に表すことを通して内容的に読み取る指導を行う。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	72.1	69.2	61.5
	歴史的分野	67.2	65.1	59.1
	公民的分野	81.2	77.6	71.6
観点別	知識・技能	74.7	72.2	66.8
	思考・判断・表現	65.5	62.3	53.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

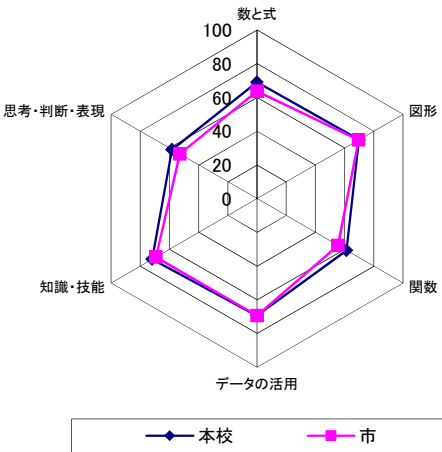
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○全体的に市の平均を2.9ポイント上回っている。 ○世界の姿、日本の地域的特色、日本の諸地域のすべての項目で市の平均よりも上回っている。地理的分野の基本的な知識を身に付けられている。 ●九州地方の農業や工業などに関する資料をもとに、地域的特色を答える問題について、市、本校ともに正答率が低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の特徴的な地形(扇状地など)については理解をしているが、日本の諸地域について、理解がやや弱い傾向がある。各地域の気候や産業など、雨温図や統計資料を用いながら地域的特色を理解させていく。 ・グラフ等の変化や推移などを正確に読み取らせ、地理的事象を様々な資料をもとに考え表現させたりするなど、思考力や表現力の向上を図っていく。
歴史的分野	○全体的に市の平均を2.1ポイント上回っている。 ○江戸幕府の政治に関して、資料から考察する問題については9.5ポイント、江戸幕府の外交政策について、資料をもとに判断する問題や旧石器時代のことを問う問題では市の平均よりも4.9ポイント上回っている。 ●卑弥呼について問う問題では、4.3ポイント下回っている。 ●資料から考察して答える問題について、選択式であれば正答率が高くなるが、記述であると正答率がかなり下がる。	・江戸時代についてよく理解してる生徒が多い。反面、弥生時代や古墳時代など、古代の日本を理解していない傾向がある。定期的に復習テストを行うなどして、日ごろから復習する習慣を作り、学習内容の定着を図っていく。 ・資料をもとにまとめる時間を作るようにし、資料から読み取ったことを自分でまとめることができるようにする。
公民的分野	○全体的に市の平均を3.6ポイント上回っている。 ○物事の採決の仕方についての問題では5.9ポイント、憲法改正の手続きについての問題では7.9ポイント上回るなど、市平均を大きく上回った内容もあった。 ●高齢社会について、資料を読み取る問題について、市の平均より0.1ポイント下回った。	・今年度は衆議院選挙などもあり、生徒の公民の授業への関心は高いように感じる。今後も、身近な出来事をきっかけとして、関心をもたせ、授業につなげていけるようにする。 ・公民では、現代の問題などについて扱いやすい。知識の習得とともに、現代における人権の問題や、政治の問題など、様々なことについて考えさせ、思考・判断・表現能力をのばしていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	69.1	63.7	61.5
	図形	69.8	69.6	61.1
	関数	61.2	55.4	43.5
	データの活用	69.4	69.3	64.2
観点別	知識・技能	71.9	69.2	65.3
	思考・判断・表現	58.3	52.9	42.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

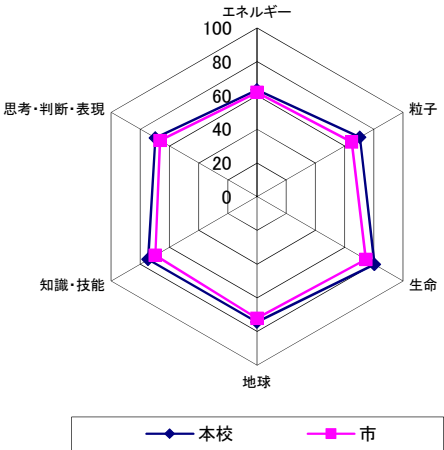
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○市の正答率を5.4ポイント上回っている。特に2次方程式を立てる問題が市の正答率よりも13.2ポイント上回っている。 ●市の正答率は上回っているが、乗法公式を利用して式を簡単にする問題の正答率が55.1ポイントである。	・授業中に、乗法公式を利用する問題を繰り返し解くことで、定着を図りたい。 ・基本的な計算問題を定期的に宿題にするなど、さらに計算力を向上させるための工夫をしていく。
図形	○市の正答率を0.2ポイント上回っている。特に平面図形の折り目の線の作図について、正しい考えを選ぶ問題の正答率は市の正答率より3.5ポイント上回っている。 ●三角形の合同条件について問われている問題の正答率は市の正答率より1.8ポイント下回っている。	・三角形の合同条件等を記載した掲示物を廊下などに貼り、生徒が何度も確認できる環境を整え、知識の定着を図りたい。 ・画像や具体物を使用した授業を展開していき、図形に対する苦手意識の解消を図りたい。
関数	○市の正答率を5.8ポイント上回っている。特に問題の条件に合う点の座標を求める問題の正答率が市の正答率よりも9.1ポイント上回っている。 ●グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差がどのような数量を表しているかを判断する問題については、市の正答率は上回っているが、正答率は39.7ポイントである	・xの2乗に比例する関数における授業で、比例、反比例、1次関数についての復習を取り入れ、表・グラフ・式におけるそれぞれの特徴を繰り返し押さえながら、知識の定着を図りたい。 ・身近な題材を取り入れた問題を多く取り扱うことで、問題に慣れ、苦手意識を払拭できるような工夫をしていく。
データの活用	○市の正答率を0.1ポイント上回っている。特に箱ひげ図からデータの分布を読み取る問題が市の正答率より5.1ポイント上回っている。 ●箱ひげ図と四分位範囲についての問題の正答率が47.0ポイントである。	・箱ひげ図や四分位範囲の意味などを正確に理解し、知識の定着を図れるよう、授業中における用語を確認を定期的に行っていく。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	63.3	61.8	60.6
	粒子	70.4	64.8	54.0
	生命	80.5	74.5	66.6
	地球	74.4	72.1	63.0
観点別	知識・技能	74.6	69.6	63.4
	思考・判断・表現	69.7	66.5	57.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

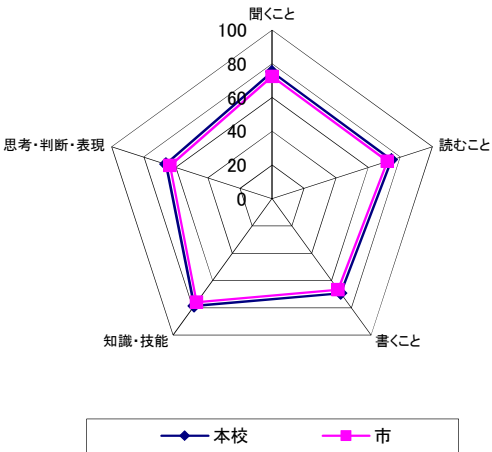
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市の正答率を1.5ポイント上回っている。特に、電流と磁界に関する問題では、電流が流れているコイルが磁界から受ける力の大きさを、大きくする方法を考える問題で、市の正答率を9.9ポイント上回っている。 ●仕事とエネルギーに関する問題では、位置エネルギーと運動エネルギーが移り変わる運動で、おもりの速さが最大になる点を指摘する問題では、市の正答率を4.7ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・光の性質に関する実験では、物体が焦点距離の外側にあるとき、スクリーンに上下左右が反対向きに映ることを理解させたい。 ・仕事とエネルギーについては、例えば「振り子」の運動を実験させて、物体が基準面より高い位置にあるときと基準面にある時の力学的エネルギーを考えさせるなど、単純かつ理解しやすい方法で指導する。
粒子	○市の正答率を5.6ポイント上回っている。特に、水溶液とイオンに関する問題では、塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えていったときの、水素イオンの数の変化を指摘する問題で、市の正答率を10.2ポイント上回っている。 ●気体の性質に関する問題では、水素の発生法を選択する問題で、市の正答率を1.7ポイント上回るとどまる。	・気体の集め方や発生方法は基本の実験操作なので、実験の機会を十分与えたい。普段あまり使うことがない下方置換法も取り上げるなどして、実験操作に十分慣れさせるとともに、なぜ水上置換法を主に使うかなどを、気体の性質とともに考えさせることで、気体についての学びを深めたい。
生命	○市の正答率を6.0ポイント上回っている。特に、植物の分類に関する問題では、コケ植物とシダ植物を分類する特徴を選択する問題で、市の正答率を14.0ポイント上回っている。 ●生物の成長とふえ方に関する問題では、細胞分裂の観察で見られるひも状のものを、「染色体」ということを答える問題で、市の正答率を0.8ポイント下回っている。	・玉ねぎの根などを使った細胞分裂の様子は、状態の良い資料を使って観察をしてもなかなか見られるものではない。市販のプレパラートを使って、実際に顕微鏡を操作して観察させたり、視覚教材を活用するなどして知識を定着させたい。
地球	○市の正答率を2.3ポイント上回っている。特に、地震に関する問題では、地震が発生した時刻を推測する問題で、市の正答率を4.4ポイント上回っている。 ●前線の通過と天気の変化に関する問題では、寒冷前線の前線面と雲のようすについて選択する問題で、市の正答率を0.1ポイント下回っている。	・視覚教材や実物標本を活用して指導していくとともに、実際の雲や前線面の様子をビデオで撮影して観察させたい。テレビ番組の天気予報などを活用し、気象衛星から見た雲の様子と天気図を関連付けた観察も、実際の前線の様子を俯瞰的に見ることができる教材として活用したい。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	75.2	72.5	70.5
	読むこと	74.6	71.9	66.9
	書くこと	69.3	66.8	59.7
観点別	知識・技能	78.6	76.0	73.9
	思考・判断・表現	66.1	63.6	55.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○領域全体では市の正答率を2.7ポイント上回っている。特に対話の内容を聞き、その意味を理解して適切に応答している(通学手段をたずねられて)の設問では、市より7ポイント、全国より17.5ポイント上回っている。 ●英文を聞き、その内容に合う絵を選ぶ(日本の食べ物の説明)の設問では、市よりも4.7ポイント、全国より9.8ポイント下回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中での教師やALTとの英語でのやりとりにより、英語を聞き取る力の向上に繋がっているため今後も継続していく。 ・生徒とALTとのスピーキングテストを定期的に取り入れ、実践的な会話力の向上を図る。対話の流れを掴み、質問に対する応答の仕方を身に付けさせる。 ・道案内などの場面を具体的に設定し、情報が複数含まれている会話を取り入れることで、必要な情報を聞き取る力を身に付けさせるよう指導していく。
読むこと	○領域全体では市の正答率を2.7ポイント上回っている。特に対話文を読み、対話の流れと案内から必要な情報を把握して人物の適切な発言を判断する設問では、市の平均より4.2ポイント、全国の平均より10.8ポイント上回っている。 ●対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している(現在完了(経験))の設問では、市の平均を3.3ポイント、全国より8.3下回っていた。	・基本文の口頭練習を十分に行い、文法事項の使用場面をイメージさせることで文法の活用方法を理解させる。 ・教科書本文を活用し、代名詞が示している内容をその都度確認するなど、英文の意味を考させることで内容の理解につながるよう指導していく。 ・メールなどの短い文を読み取る上では、日時や場所、方法、その内容を具体的に把握するような活動をさらに増やしていく。
書くこと	○すべての設問において市の正答率を上回っている。領域全体では市の正答率を2.5ポイント上回っている。特に対話の流れに合った英文を正確に書く(Whenを使ってときをたずねる)設問が市よりも4.1ポイント、全国の平均より13.9ポイント上回っている。 ●一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった内容で3文以上の英作文を書く設問は、市の平均を上回ってはいるものの、0.9ポイントと低い。	・与えられた情報を把握し、時制を意識して英作文するなど、既習事項を生かして、正しい語順で自分の意見や考えを表現できるような活動をできるだけ多く取り入れていく。 ・教科書の単元内容をもとに、生徒自身の考えや気持ちを、既習の単語や文法を使って英語で表現していくような機会を増やしていく。

宇都宮市立陽東中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
(1)主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善 (2)タブレット端末を活用した個別最適化された学びの実現 (3)生徒自らが学びに向かう学習評価の在り方	左のテーマに基づき、一人一授業を全教員が実施し、お互いに授業を見合い、意見交換することで、教職員の指導力向上を図る。	全ての教科において、市の平均正答率を上回った。また、「学校の授業がどの程度分かりますか。」についての肯定的回答は、1年生は4.0ポイント、2年生は5.6ポイント、3年生は1.3ポイント市の肯定割合を上回った。対話的な活動については、どの学年も学び合いや言語活動に前向きに取り組んでおり、市の平均を上回った。また、どの学年もタブレットの導入で、パソコンの操作技術が昨年度に比べ大幅に向上したと言える。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	毎週水曜日を「学力向上の日」と設定し、スタンダード学習やステップアップ学習などを行う。また、毎日、学習ノートを提出させ、学級担任による確認を行ったり、学習計画表を作らせたりすることで生徒が自主的に学習に向かう習慣作りを支援する。	1年生では、平日の学習時間については1時間くらいと回答した生徒が一番多く29%で宇都宮市の25.1%を上回った。また、土日は2時間くらいと回答した生徒が最も多く23.4%で、宇都宮市の平均より上回った。2年生では、平日の学習時間は1時間程度と回答した生徒が24.6%だが、30分程度と回答した生徒の割合も比較的高く、土日には、1時間程度と回答した生徒の割合が最も高くなった。一方、3年生では、平日、土日ともに3時間以上学習に取り組んでいる生徒の割合が最も高くなった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

(1) 全国・県・市の学力調査から ・全国学力学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査、市学習内容定着度調査では、全ての教科及び領域において国、県、市の平均正答率を上回った。しかし市学習内容定着度調査の教科のカテゴリー別正答率を見ると、数学の図形の問題とデータ活用の問題では、市の平均と同等程度に留まった。また、とちぎっ子学習状況調査では、国語の漢字の書き取りや理科の火山分野での平均が市や県の平均を下回った。この結果を受け、上記の課題を克服するために全職員で情報を共有し、継続的な漢字の小テストの実施や記述式問題に対する指導を強化するとともに、苦手分野の克服に努めていく。各学力調査の結果から、2・3年生ともに学力の二極化傾向も見られたため、昨年度に引き続き、学習内容の定着度下位群の定着度を引き上げるとともに、上位群の定着度を更に向上させる指導をしていきたい。 (2) 県・市の児童生徒質問紙から ・市の調査では、「次の教科等は将来のために大切だと思いますか。」との問いに対し、音楽、学級活動、総合的な学習の時間において市の平均を下回る傾向が見られた。また、2年生においては土日の学習時間が昨年度と比べて5.3p下回った。生活面では、1・3年生において、朝、自分で起きられないと回答した生徒の割合が市のそれより多く、また、1年生では、動画を3時間以上視聴している生徒の割合が平日では+3.8p、土日には+1.2p市の平均を越えた。さらに「地域で、知っている人などにあいさつしていますか。」との問いに対しては全学年とも市の平均を下回った。 ・県の調査では、「毎日同じ時間に学習に取り組んだり、就寝したりしているか。」との問いに対しての肯定割合が県や市を下回った。 ・このことから、次年度は、技能教科等の魅力や大切さを生徒に伝えていくとともに、土日については学年+1時間、平日は学年と同じ時間以上を学習すること、生活面においては、毎日の学習時間帯や就寝時間等を生徒が自分で考えて行えるようにするとともに、地域の人たちへあいさつを進んで行えるよう全職員で共通理解し指導を行う。 (3) 授業等への取組状況から ・「グループなどの話し合いに自分から進んで参加していますか。」についての肯定的回答は、市の生徒質問紙では2年生の肯定割合は84.6%で、その内「とてもあてはまる」と回答した生徒が65.0%だった。1年生の肯定割合は82.7%であった。また、県の生徒質問紙の中の「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」についての肯定的回答は市の平均よりも3.3ポイント、県の平均よりも2.7ポイント上回っていることから、どの学年も学び合いや言語活動に前向きに取り組んでおり、対話的な学びが身に付いてきていると言える。 ・市の生徒質問紙の中の「学習に対して自分から進んで取り組んでいますか。」についての肯定的回答は、2年生は75.0%で、1年生は79.4%であった。生徒の一部が自ら進んで学習に取り組めない理由の一つとして、授業の進度が早く、学習内容が難しくなったと感じると、努力せずに諦めてしまうという背景が見られる。今後は、困難な課題に挑戦する意欲や知的好奇心を掻き立てる課題を意図的に設定し、「もっと学びたい」という意欲を高め、主体的な学びを身に付けさせたい。家庭学習では、課題をきちんと提出している生徒の割合が高い一方で、習ったことをすぐに復習したり、自分で計画的に家庭学習を行ったりしている生徒の割合は低い。次年度は自己評価を工夫する等の対策を講じ、生徒自らが進んで学習に取り組めるよう全職員で共通理解し、支援していきたい。
